

鼻茸を伴う慢性鼻副鼻腔炎と真菌の関与に関する検討

廣津幹夫 小野倫嗣 塩澤晃人

三輪正人 池田勝久

順天堂大学大学院医学研究科 耳鼻咽喉科学

鼻茸を伴う慢性鼻副鼻腔炎に、*Alternaria* や *Cladosporium* といった真菌の関与が欧米を中心に報告されているが、その病態における役割は不明である。また欧米では鼻茸を伴う慢性鼻副鼻腔炎を好酸球性副鼻腔炎と定義しているが、我が国では、鼻茸を伴う好中球性副鼻腔炎が散見されており、病態の差異が推測されている。これまでに我々は、真菌のPCR解析を行い、好酸球性副鼻腔炎の症例の鼻茸組織から真菌のDNAを11症例中8症例に検出し、非好酸球性副鼻腔炎に比して有意に高率であった。今回、我々は真菌DNAの検出感度をあげるため、真菌共通の18SrDNA-ITS-26SrDNA遺伝子を検出するために使用していたprimer: ITS1F~NL-4 (1100~1200bp) を ITS-1F~ITS-4R (500~700bp) /NL1~NL4 (約600kb) に細分化、さらに過去の報告で使用されている universal fungal primer: FF2~FR1 計3つのprimerを用いて、鼻茸を伴う慢性鼻副鼻腔炎症例33症例（うち好酸球性副鼻腔炎症例22症例）の鼻茸組織に対して真菌のPCR解析を行った。*Candida parapsilosis*, *Rhodotorula mucilaginosa* を中心とした真菌を、好酸球性副鼻腔炎症例16症例 / 非好酸球性副鼻腔炎症例1例から認めており、改めて有意差をもって好酸球性副鼻腔炎を示唆する症例の鼻茸組織から真菌のDNAを検出する結果となった ($p < 0.01$)。

鼻茸を伴う慢性鼻副鼻腔炎と今回我々が検出した真菌の関与性の証拠を探求するため、レーザーマイクロダイセクションを用いた真菌DNAの局在の確認を検討した。また、ダニ・ハウスダスト・真菌に対するRAST陰性症例の鼻茸細胞組織に、今回我々が鼻茸細胞からDNAを検出した *Candida parapsilosis*, *Rhodotorula mucilaginosa* などの抗原で刺激した際の炎症性メディエーターについても報告する。